

身近な外来種について

畑 幸慶 (丹波市立春日中学校 2年)

研究テーマ

『身近な外来種について』

研究年月日

2025年6月13日～8月28日



研究の動機

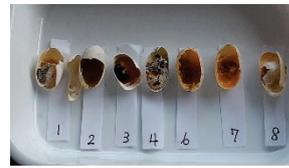
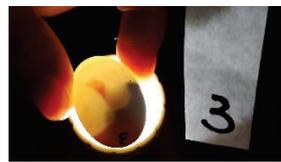
家族がクサガメという外来種のカメを拾って来た事から、身近にいる外来種について調べようと思いました。

研究の目的

僕は、生き物観察が好きで、生き物の観察をしてきましたが身近でよく見る外来種について調べてこなかったから、調べてみようと思いました。

準備物

- ・カメラ、スマホ
- ・外来種について書かれた本、図鑑、インターネットサイト
- ・捕獲道具
- ・観察容器
- ・メジャー



研究方法

- ① 三宝ダム周辺と自宅近くの川などで外来種を捕獲する。
- ② 外来種の大きさ特徴を観察する (写真撮影など)。
- ③ 図鑑やインターネットサイトで名前や特徴、なぜ運ばれてきたかなどを調べる。

結果の予想

テレビや新聞で、外来種が大量発生しているニュースをよく目にするので、自分の住んでいる周りには自然が多い為、色々な外来種が多く生息していると思う。

結果

- ① 三宝ダム周辺で確認出来たもの
 - ・マシジミ (在来種) *Corbicula leana*
 - ・カワムツ (在来種) *Nipponocypris temminckii*
 - ・マツモムシ (在来種) *Notonectidae*
 - ・シオカラトンボのヤゴ (在来種) *Orthetrum albistylum*
 - ・カワニナ (在来種) *Semisulcospina*
 - ・サワガニ (在来種) *Dehaani*
 - ・ヌマエビ (在来種) *Atyidae*



② 大路小学校付近の川で確認出来たもの

- ・カワヨシノボリ (在来種) *Rhinogobius flumineus*
- ・ヌマエビ (在来種) *Atyidae*
- ・カワムツ (在来種) *Nipponocypris temminckii*
- ・ニホンイシガメ (在来種) *Mauremys japonica*



③ 自宅近くの川で確認出来たもの

- ・ウシガエルのオタマジャクシ (外来種) *Lithobates catesbeianus*
- ・アメリカザリガニ (外来種) *Procambarus clarkii*
- ・ドンコ (在来種) *Odontobutis obscura*
- ・ハグロトンボのヤゴ (在来種) *Atroalopteryx atrata*
- ・カワニナ (在来種) *Semisulcospina*
- ・台湾シジミ (外来種) *Corbicula fluminea*



④ 田んぼで確認出来たもの

- ・アメリカザリガニ (外来種) *Procambarus clarkii*
- ・タニシ (在来種) *Viviparus*
- ・カワニナ (在来種) *Semisulcospina*
- ・ドジョウ (在来種) *Misgurnus anguillicaudatus*



◇今回の調査で、確認できた外来種

・アメリカザリガニ

全長 約 8 cm

背筋が伸びて大きなハサミを持つザリガニ型のエビで、全体的に赤みが強い。食用ガエル (ウシガエル) のエサとして、人為的に持ち込まれて日本各地に分布を広げている。

・ウシガエル (オタマジャクシ)

体長 約 10 cm

大型のオタマジャクシで黒い斑点がある。食用として、アメリカから持ち込まれ野生化した。天敵がない環境で繁殖し、生態系に影響を与えている。

・台湾シジミ

殻長 約 2.5 cm

淡水生の二枚貝で、マシジミやヤマトシジミより小型。中国や台湾から食用として輸入したシジミの中に混入していた。水質の悪い所でも生息できるため、生息域を広げている。

・クサガメ

学名 *Mauremys reevesii*

全長 約 25 cm

メスの方がオスよりも大きい。

流れの緩やかな川などに生息している。ペットとして、輸入されたものが野生化した。ほぼ日本全分布している。

・今回、水辺を調査して外来種は、アメリカザリガニ、ウシガエルのオタマジャクシ、タイワンシジミ、クサガメの4種類が確認出来ました。また、在来種も多く確認できたが、生息数では在来種より外来種の方が多かった。

結果の考察

今回の調査では水生生物を中心に観察を行った。捕獲できなかった生物もあると思うがこの調査では、外来種の種類は多く確認できなかった。しかし、生息数は在来種に比べはるかに多かった。また、色々な所に分布していた。このことから、在来種に比べ外来種は、どんな環境にも適用し、繁殖力も強いことが分かる。このことから、数年で生態系が変化し、いままで見たことのない生物が多くなるのではないかと思う。だけど、外来種の割合が多い所と下流であっても、外来種が見つからない場所があることが、分かり、コンクリート護岸と自然河岸の違い、食物連鎖、移動能力の有無、水温、気温外的要因の有無…いろいろな条件を比べ、外来種がいない条件は何なのか？発見出来たら莫大な費用や労力をかけずに外来種を減らす方法が見つけれられるのではないかと思います。

反省と感想

◇良かったこと

- ・身近にいる外来種を確認できたこと。

◇失敗したこと

- ・クサガメの卵を観察する予定だったが孵化させることが出来なかった。
- ・温度、湿度管理が出来なかった。
- ・調査では、もっと詳しく種類を特定すること。
- ・捕獲数を記録し、分布状況を地図やグラフであらわすともっと分かりやすかった。
- ・研究生物が突然やってくるので計画性、内容量、研究期間が短かったり、少なかったりする。

参考文献

- ・ホームページ ウキペディア
- ・環境省 日本の外来種対策
- ・日本の外来生物 自然環境センター編著
- ・外来生物図鑑 五箇 公一 監修

お話を伺った方

- ・水分かれフィールドミュージアム 海老原 茉里奈 先生
その他の職員の先生方

